

原発回帰 撤回させよう

全国連絡会が集会 福島を忘れない



原発ゼロの実現を求め行進する参加者＝4日、東京都中央区

東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から12年を迎えるのを前に、原発をなくす全国連絡会は4日、「福島を忘れない 原発推進をゆるすな 3・4原発ゼロ集会」を東京・日比谷野外音楽堂で開きました。4年ぶりの対面集会。福島をはじめ各地から500人を

（主催者発表）が参加。集会後の銀座までパレードで「原発事故を忘れない」「原発回帰方針を撤回させよう」とアピールしました。

↓関連①面

開会あいさつした新日本婦人の会の米山淳子会長は、岸田政権の原発回帰への大転換は、事故の教訓、被災者を踏みにじるものだと批判。「原発ゼロこそ福島原発事故の最大の教訓です。大軍拡・大増税もノー。くらしを壊す岸田政権の暴走を止めよう」と訴えました。

古賀茂明「フォーラム4」代表がスピーチし、「もう二度『原発やめる』と声をあげ、広げていこう」と呼びかけました。

福島・いわき市民訴訟原告団団長の伊東達也さんは「いまだに8万人が故郷に戻れない。訴訟で国の責任を認めさせることは、原発ゼロの大きな力になる」と訴えました。

避難者訴訟原告の丹治杉江さんがあいさつし、「福島のことを忘れない」と群馬で11日に会を結成する「と報告しました。

国際環境NGO「FoE Japan」の吉田明子さんが連携あいさつしました。

日本共産党の吉良よし子参院議員は「岸田政権の原発回帰を許さず、原発のない未来を次の世代に手渡そう」とあいさつしました。

原発ゼロまで行動

一ノ設増新・延長期間転運

晴天のもとで開かれた「3・4原発ゼロ集会」には、主催者発表で5000人が参加。会場の日比谷野外音楽堂（東京都千代田区）に幅広い世代が集まり、原発再稼働と運転期間の延長、新增設を許さないと声を上げました。

集会参加者

団体職員の藤野好美さん（47）＝埼玉県新座市＝は、加速させる岸田文雄政権に夫の強（つよ）し（さん）（48）、「福島第一原発事故を忘れて4歳の長男と3人で集会に参加しまっている」と憤ります。



「原発推進を許さない」「原発反対」と書かれたプラカードを掲げる人たち＝4日、東京・日比谷野外音楽堂

好美さんは「周りの人からは『電気料金も上がっているから原発を廃止することも仕方ないのでは』といった声も聞かれます。でも、あれだけ悲惨な事故がまた起きないとは言えないですよ」と話し、危険な原発に依存する政府を批判しました。

「国と東電は原発事故の責任を取れ」「汚染水の海洋放出反対」と書かれた旗を立てていたのは、福島県からの参加者。

加害。国と東電に事故の損害賠償を求めた集団訴訟の原告でもある松本洋子さん（64）「いわき市」は「原発事故で生活が壊され、家族や地域が分断された人がたくさんいます。政府が原発の運転期間を延長すると決めたことは安全軽視だと思えます。原発に頼らないエネルギー政策に転換してほしい」と語りました。

友人と誘いあって参加した男性（31）＝東京都小金井市＝は「原発の維持費は莫大（ばくだい）で、廃炉作業にも長期間を要します。事故が起これば大きな被害が生じる原発の危険性は明らかで、なくなればいいと思います。国の政策を変えるために声を上げ、行動していきたい」と力を込めました。

遠矢駿一郎さん（77）＝東京都世田谷区＝は、3年ぶりの集会とパレードに意気込みながらも、以前と比べて参加者が少なくなっていることに危機感を抱きました。

「私は原発事故の直後から『さようなら原発』一帯（いちほう）の会」で活動してきました。福島で起きたことはまだ終わっていません。声を上げ続ける人がいなくなってしまうたら、どんどん悪い方向に進んでしまいます。これからも地道に活動を続けていきたい」と話しました。